

戦略的大学連携支援事業 ユニバーサルコミュニケーションのための 教養教育に向けた千葉圏域コンソーシアム

2007 年に採択された戦略的大学連携支援事業、「ユニバーサルコミュニケーションに向けた教養教育のための千葉圏域コンソーシアム」が、2007 年度後半から始動いたしました。このコンソーシアムには、千葉圏域に拠点を置いて地域社会と連携しつつ、国際化社会へ対応しようとさまざまな試みを行っている 4 つの大学、千葉大学・神田外国語大学・敬愛大学・城西国際大学が参加しています。今号では、本事業の取組の概要、運営体制と、この取り組みに参加する 4 つの大学を紹介します。



ごあいさつ

本プロジェクトは戦略的大学連携支援事業の総合的連携型(広域型)として申請し、採択されたものです。この事業自体が新規で、大学間の連携を推進するという今までにないもので、非常に関心を持たれています。今回、本プロジェクトが採択されたことは、千葉県の特色のある大学が連携することにより、新たな可能性を生み出すことを期待されたものと理解しています。千葉県はいろいろな面で多くの可能性を持った県です。その地で、我々 4 大学が協力して教育の質の向上を図っていききたいと考えています。支援期間中はもちろんのこと、その後も充実した教育を提供していけるよう、教育システムの構築や教材開発などを積極的に行っていく予定です。ご支援のほど、よろしくお願いいたします。

千葉大学理事・副学長・普遍教育センター長 北村彰英

取組概要

共生社会を実現するためには、言語、文化、価値観、経験、身体的能力などの違いを越えて、バリアのないユニバーサルコミュニケーションが成立していなければなりません。国際化の一層の進展とバリアフリー社会の深化が目指されている現代社会においては、世界の言語・文化について幅広い知識を持ち、性差や身体的能力にとらわれない開かれたコミュニケーション能力を備えた 21 世紀的な地球市民を養成することが喫緊の課題となっています。本取組は、国際化と社会変容が進む千葉圏域において、千葉大学を中核に 4 大学を結集し、「千葉圏域コンソーシアム」を構築、ユニバーサルコミュニケーション実現に向けて、FD 実践に裏付けられた体系的な教養教育のカリキュラムを開発します。本取組は、地域における大学間連携が、新時代にふさわしい教養教育を実現し、さらに生涯教育へと応用的に展開しつつ、地域の公共性実現に貢献するモデルケースとなることを期しています。

連携取組の趣旨・目的

人々がその多様性を認めつつ融和的に共存する共生社会を実現するためには、言語・文化・価値観・知識・身体的能力の違いなどを越えて、バリアのないコミュニケーション、すなわち「ユニバーサルコミュニケーション」が成立している必要があります。国際化のいっそうの進展とバリアフリー社会の深化が目指されている現代社会においては、世界の言語・文化について幅広い知識を持ち、性差や身体的能力の違いにとらわれない開かれたコミュニケーション能力を備えた 21 世紀的な地球市民を養成することが喫緊の課題となっています。

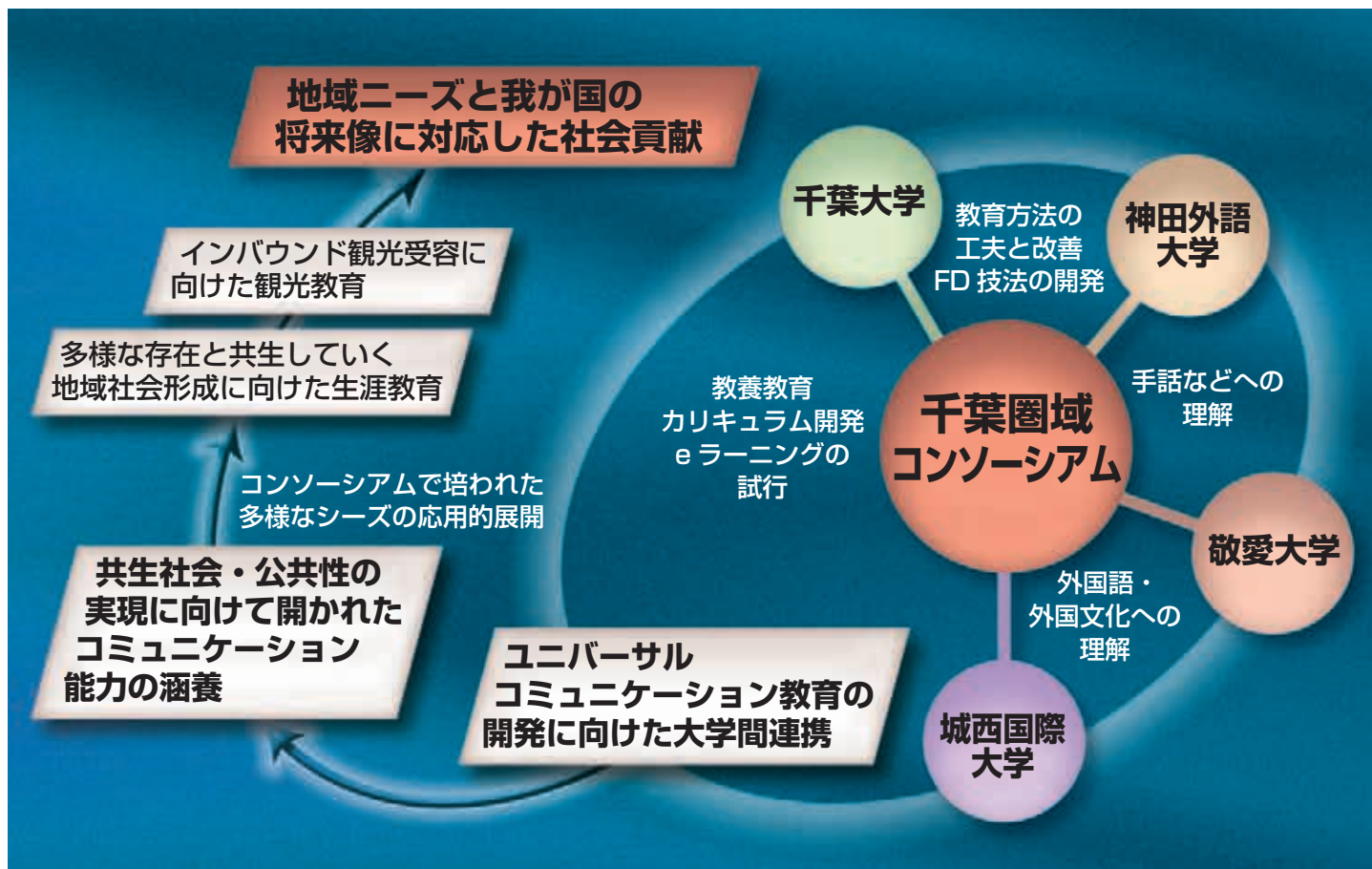
いまや「ユニバーサルコミュニケーション」は普遍的な課題として認

識されているものの、千葉大学をはじめとする連携取組 4 大学が位置する千葉圏域においては、それはとりわけ重要な意義・背景を持っています。首都圏に位置して成田国際空港を擁する千葉県は、在住外国人が全国で 5 番目に多い都道府県であり、しかも千葉県をはじめとする千葉圏域の地方公共団体では、「成田トランジットツアー」の提起など、成田国際空港を利用する外国人への観光誘致を本格化しようとしています。これによって、流動する一時的滞在者を含めれば、千葉圏域の滞在外国人の総数は、全国的にも一、二を争う規模となります。したがって、言語・文化・価値観を越える「ユニバーサルコミュニケーション」の確立に向けて、地域社会の知的基盤条件を整備していくことは不可欠なのです。

本取組は、当該連携地域における目の課題、ニーズに応えるものでありながら、同時に、国際化・社会のバリアフリー化を深化させていかなければならない現代日本の針路とも合致します。本取組の舞台となる千葉圏域は、首都に隣接する過密な商工業地域・新興ベッドタウンと、過疎に苦しむ農業・漁業地域との異なった類型の地域社会をとともに抱えており、まさに日本の縮図と言わなければならない状況にあります。ゆえに、本取組が実施される千葉圏域は、いわば「ユニバーサルコミュニケーション」を必須の条件とする日本社会の未来に向けた実験場であるとも言えます。その意味で、本取組の事例は、他地域においても波及的に実施されるべき先行的事例となると考えられます。

既に国立大学法人千葉大学と千葉県との間では、観光等の事業について協力していくための協定が締結されています。かかる連携関係がただ本学と千葉県の間における二者間関係に止まらず、本取組を起点として、千葉県と千葉圏域大学コンソーシアムとの間の連携関係に発展していけば、千葉県において目指されている共生社会の実現、あるいは外国人観光客の受け入れにもつながっていく草の根の国際化にも確実に資することになります。

●ユニバーサルコミュニケーションのための教育に向けた千葉圏域コンソーシアム



連携取組の内容

「ユニバーサルコミュニケーション」のための教養教育にはきわめて多様な学問領域が含まれます。コミュニケーションの障害となるバリアの様態は多様であるためであり、したがってそのバリアを解除するために修得しなければならない学知と技法も本来多岐に及びます。しかし、これからの大学教育においては、「ユニバーサルコミュニケーション」を、21 世紀の地球市民が備えるべき高度な教養として位置付け、体系性を持ったカリキュラムへと統合していく必要があります。しかしながら、「ユニバーサルコミュニケーション」を総合的に成熟させるために必須と考えられる中核的教育目標のみに限っても、1)世界の多様な外国語への理解、2)世界の多様な異文化への理解、3)手話・点字等、音声言語・表記言語に依拠しないコミュニケーション手段への理解など、そのカバーしなければならない領域はあまりにも広いものとなります。したがって、1 大学で完成されたカリキュラムを備えることには大きな困難が伴います。

本取組は、参加 4 大学が千葉圏域コンソーシアムを形成し、「ユニバーサルコミュニケーション」のための教養教育に関するカリキュラムを開発すること、ならびに、かかるカリキュラムを実施していく際に発生する問題点を共有しつつ、コンソーシアム FD 部会のもとでその実施方法を不断に改善していくための基盤的体制を構築すること、を当面の目標

としています。この目標に向けて、コンソーシアム参加大学は内外の教養教育の実情について調査を進め、WG による検討会を通して「ユニバーサルコミュニケーション」教養教育カリキュラムの基本設計を行い、かつ、独立行政法人メディア教育開発センターとも連携しつつ、e-learning 教育システムを試験的に導入して一部試行に移すとともに、ICT を利用した FD 技法の開発に着手します。また、開発されたカリキュラムを効率的に共有化していくために、サーバや教育用端末など ICT の基盤的整備を実施します。

本取組は、以上のようなカリキュラム開発・FD などの大学教育のみに止まることなく、獲得された成果を基礎に据えながら、大学・地域において共生社会の実現を促進するための具体的な事業展開の構想を視野に入れています。想定されているコンソーシアムの展開的事業は、大学という教育の現場において、留学生、障害者の学習生活を支援していくための技法を共同で開発し、大学へのユニバーサルアクセスを強化することであり、あるいは、外国語・外国文化に関する社会人教育・生涯学習事業などのカリキュラムを開発し、外国人観光客受容に向けた地域社会の基盤的条件を整備することです。本取組は、このように、「ユニバーサルコミュニケーション」の発想を基底に据えながら、そこから共生社会の実現に向けて多様なシーズを発展させていく長期的・戦略的展望を前提としています。

千葉圏域コンソーシアム参加 4 大学の紹介



千葉大学普遍教育センター

普遍教育とは、教養教育とリテラシー教育の両者を包含した千葉大学固有の名称であり、社会の一員として具備すべき一般的素養・知見と総合的判断能力を養うことを目的としています。千葉大学では、普遍教育を「各学部・学科の固有な教育と連携させつつ、全学協力のもとに、幅広く深い教養を通して、問題解決能力を培い、創造的な知の営みを通して豊かな人格を養い、総合的な判断力を身につけたよき社会人を育成することに寄与する」教育と位置づけています。

普遍教育センターは、普遍教育の企画、運営及び評価システムを開発し、実施しているほか、全学部共通の教育を提供するための基盤形成に係る諸事項を総合的に調査・研究し、千葉大学における教育の質的向上に寄与するための活動を行っています。

●カリキュラムの特色

本学では、「時代にふさわしい高い専門性と総合的判断力を持ち、国際化・情報化の進んだ人類社会の一員として創造的に行動する能力をもった人材を養成する」という教育目標を掲げ、「4 年(6 年)一貫教育の基本方針に基づき全学教員の協力体制のもとで普遍教育と専門教育を緊密に連携させ総合大学としての特色を最大限に活用して」教育カリキュラムを編成しています。

教育カリキュラムの全体は「普遍教育科目」と「専門教育科目」に二分されます。

普遍教育科目は、社会の一員として備えるべき一般的素養・知見と総合的判断力を養うことを目的として開設されています。普遍教育科目は、本学の総合大学としての特色を最大限に生かして、全学的な協力によって企画され、運営されています。

専門教育科目は、専門的な知識や学問的視覚・方法の取得、および専門的洞察力、問題構成力、探求能力などを高めるための科目です。専門科目は、各領域に固有の知見・視覚・方法等をそれぞれの学問的手続きにしたがって系統的に獲得する科目であり、専門基礎科目は、そうした専門教育のために不可欠な基盤をなす科目です。専門基礎科目には、各学部が独自に開講する学部専門基礎科目と、全学の協力体制のもとで開講される共通専門基礎科目との 2 種類があります。

●普遍教育科目

普遍教育科目は、以下の 6 つの科目群から成ります。これらの科目は、国際化し、情報化した現代社会において必須の要件をなすものとして開講され、あらゆる学習・研究活動の基盤をなすものとして基礎的で共通的な技能と知識を修得する科目です。またこれらの科目は、自分の専門とする領域を広い視野のもとに位置づけたり、学際的、総合的な知見や思考法を養ったりする科目でもあります。

- 英語科目
- 初修外国語科目(独、仏、中、西、伊、朝、露)



- 情報リテラシー科目
- スポーツ・健康科目
- 教養コア科目
- 教養展開科目

教養コア科目は、論理と哲学・こころと発達・芸術と文化・社会と歴史・くらしと環境・いのちと科学 6 つの科目群からなります。これらは大学で何を学んでいくのか、何を学ぶべきなのかを、全学部の教員が自身の学問を通して学生たちに伝えていくものです。多岐にわたる分野と多彩な教員によって構成されています。教養コア科目の履修を通して喚起された学問への興味・関心をさらに拡大、深化させ、豊かな教養へと結びつけることを目的として開講されているのが、教養展開科目です。200 を超える授業が用意されていますが、学生たちが授業を選択履修する際の指針となるよう、学習の目的やテーマによってグループ化されています。教養展開科目の履修を通して、隣接する領域についての知見を深め、異なる学問世界への視野を広げるとともに、学んだ知識を経験として自分のものにし、自ら課題を見だし、解決する能力を育てていくことをねらいとしています。

千葉大学：<http://www.chiba-u.ac.jp/>

普遍教育センター：<http://fkf.chiba-u.jp/>

千葉大学普遍教育：<http://www.fuhon-chiba-u.jp/pub/index.html>



神田外語大学

神田外語大学は 1987 年に創立された外国語学部だけの単科大学です。高層ビルが立ちならぶ幕張新都心のすぐ近くに位置しています。建学の理念は「言葉は世界をつなぐ平和の礎」。外国語の実践的な運用能力をはぐくみながら、言葉の背景にある文化への理解と関心を育て、異文化間の相互理解と世界の平和に貢献しようとするものです。

●教育実践の特色

「環太平洋」をキーワードとして、英米語学科、国際コミュニケーション学科、中国語学科、スペイン語学科、韓国語学科、国際言語文化学科(インドネシア語、ベトナム語、タイ語、ブラジル・ポルトガル語専攻)の 6 つの学科と、世界中からやってくる留学生のための留学生別科が設置されています。

国際語としての英語教育は全学科において重視されています。少人数のクラス編成、語学教育の専門資格をもつ多数のネイティブ教員、プレゼンやディベートを重視する双方向・参加型の授業、グループワークの多さなど、実践的なコミュニケーション能力を重点的に育成する授業方法を特色としています。

さらに、語学と IT の自立学習支援施設 SACL (Self-Access, Communication, LearnerAutonomy) では、英語教授法の修士号を持つ外国人語学専任講師の集団である ELI (English Language Institute) が、授業の枠をこえて、学生一人一人のニーズにあった学習法をアドバイスします。自律的な学習者を育てるラーニング・アドバイザー・システムは高い評価を受け、2003 年には第 1 回文部科学省「特色ある大学教育支援プログラム」に採択されました。

英語以外の 7 つの専攻外国語についても、大学に入ってから学びはじめる点に留意しつつ、コミュニケーション能力養成を重視する教育課程を編成しています。2008 年 9 月には新図書館と多言語・多文化の自立学習支援機能を持つ「多言語コミュニケーションセンター」(Multilingual Communication Center、通称マルク MULC) がオープンしました。7 つの言語圏に疑似留学体験ができる言語エリアとして、教室での授業と連繋しながら、活動を充実させていく予定です。

こうした教育実践をととして「育成したい人物像」は、高いコミュニケーション能力をもち、自己と他者の伝統と文化をともに尊重できる、たくましさや気品を備えた人物です。

●カリキュラムの特色

神田外語大学のカリキュラムは外国語専門大学として語学力を重視した上で、学生一人ひとりが興味や目的にそってじっくり取り組めるカリキュラムとなっています。

○英語力の充実

国際化が進み「英語」が世界の共通語になりつつある現代、英語を専攻語とする学科だけでなく、全ての学科において英語力を強化するカリキュラムとなっています。

○興味にあった 13 の研究プログラム

すべての学科において学生は 3 年次から 13 の研究プログラムから 1 つを選択します。



専攻語学の背景となる社会や文化はもちろんのこと、日本研究、ビジネス、国際協力など、多様な興味とニーズにあったプログラムが用意されています。

○論理的思考を育成する

社会人として必要な論理的思考は主に書くことを通して訓練されます。神田外語大学では専攻語の「読む・書く・聞く・話す」能力の強化と共に、卒論やゼミをととして母語である日本語の「読む・書く」にも力を入れ、学生の論理的思考を育成しています。

○資格を取ることで可能性は広がる

語学力のレベルをはかることができる外国語検定試験。英検、TOEIC、TOEFL、中国語検定試験など、指定された検定試験で一定のランクないしは点数を獲得すると卒業要件単位として認定されます。教職課程も全ての学科で履修可能。可能性を広げるカギとして毎年多くの学生がさまざまな資格取得にチャレンジしています。

<http://www.kandagaigo.ac.jp/kuis/>

敬愛大学

敬愛大学は、「敬天愛人」の建学の精神に則り、経済学部では「人間性と創造性豊かな経済人」、国際学部では「グローバルな視野と豊かな人間性を持つ人材」の育成を図ってきました。具体的には、(1)建学の精神を具現化する人格教育(現代的課題を「敬天愛人」の精神に基づいて専門家が講義する「敬天愛人講座」を本年度から開始)、(2)一般教育科目・語学科目からなる教養教育、(3)経済学・国際学関連専門教育の3つの教育を徹底し、人間性豊かで何事にも積極的に取り組む覇気のある人材の育成を目指しています。

本学の特色は、(1)ゼミを必修化し、ゼミでのアットホームな雰囲気を通して小規模大学・少人数教育のメリットを最大限生かすこと、(2)「教育の敬愛」の実績を基に教職課程を置き、両学部全体では、「英語」「社会」「地理歴史」「公民」「商業」「情報」の中高教員免許の他「小学校教員免許」を取得できること、(3)情報処理教育にも力を入れ、さまざまなIT関連の資格が取得できること、(4)国際学部では、海外スクーリング、ボランティア、海外留学などを通して、体験による国際的センスの涵養を図っていることにあります。また、両学部ともキャリア教育・就職支援を充実させ、就職率の高位維持、就職先の質的向上にも努力しています。

地域貢献の分野では、本学の研究所主催で「高校生論文コンテスト」を始めてから6年目を迎えます。毎年多くの高校生からの応募があり、論文の質も非常に高くなっています。このコンテストを通して、高校生がいろいろなテーマについて考える機会を提供しています。また、3年前からはじめた社会人を対象とした「敬愛大学生涯学習講座」も年々受講者が増え、極めて盛況です。今後、更にさまざまな地域の知的ニーズに対応し、地域を愛し地域に愛される大学を目指します。

敬愛大学では、国際社会や日本社会の激しい変化に立ち向かうことができる青年を育てるために、これまでさまざまな教育改革を行ってきました。「千葉圏域コンソーシアム」事業において、本学が育んできたユニークな国際社会を理解する教育プログラムを基礎に、より洗練された科目の開発に努めていきます。

●教育カリキュラムの特色：国際学部

国際学部の教育指針は、地域社会の国際化を担う人材の養成に向けて、世界の恵まれない人びとへの限りない共感と地球上の平和を希求する国際人を育成することにあります。国際学部は、グローバル化する社会・経済の変化に対応できる力を養成する国際学専攻(国際ビジネス、社会/政治、英語/英米文化の3コース)と、教育現場の国際化に充分に対応できる小学校教員(1種)を養成する、地域こども教育専攻から成っています。

国際学部の教育方法には、さまざまな分野から「地域」を総合的に探求する態度を身につける地域研究、実践を通して学ぶことを重視する実践的教育、世界各地からきた留学生とともに過ごす国際色豊かなキャンパスで身につける異文化共生という3つの特色を持っています。これらの特色を活かす新しい動きとして、千葉圏域に貢献する人材を育てるために、新しい「千葉学」をカリキュラムに採り入れました。とりわけ千葉県である「千葉」を多角的に理解した上で、国際的視野から「日本人の食・農のあり方」を問い直そうと考えています(新アグリビジネス・教育プログラム)。また、敬愛大学国際学部は、日本で唯一、国連グローバ



ル・コンパクト・アカデミックバージョンに参加する学術団体となりました。

●教育カリキュラムの特色：経済学部

経済学部のカリキュラムは経済系と経営系から構成し、2009年度から2系7コース制とします。早い段階から自分自身の将来のビジョン・目標を意識した計画的な学習を促すため、2年次に2系およびコースの選択をして、学習モデルにしたがった系統的学習をすすめていきます。中でも、公務員を目指す「公共サービス」、金融機関への就職を目指す「金融・証券」の新設2コースは他大学では見られない注目すべきコースといえます。

●経済系4コース：日本・世界経済、環境・福祉、公共サービス、金融・証券

●経営系3コース：経営・会計、ビジネス情報、現代産業

このほかに、経済学部のカリキュラムは、4年間必修のゼミナール、情報処理教育や補習教育による基礎学力の向上、実務経済人講師や寄付講座による実践的な授業も展開、中学校1種社会、高校1種地理歴史・公民・商業・情報の5種の教員免許が可能、という特色があります。

<http://www.u-keiai.ac.jp/>



城西国際大学

城西国際大学は、「学ぶことを通しての人間形成」、「国際社会に生きる人間としての自己形成」を建学の精神として 1992 年に千葉県東金市に開学、2007 年に現在の 6 学部 7 学科の体制となり、東京ベイエリアに多くの教育拠点を設ける国際大学、総合大学として、多角的な人材育成に取り組んでいます。

本学の教育特色としてまずあげられるのは、学部・学科横断的な「人材育成教育の 3 本の柱」です。国内外のさまざまな社会の現場や教育機関でインターンシップや研修を経験する「フィールド教育」、従来のカリキュラムでは取り組みにくいユニークな課題やテーマを設定し、学生と教員が一体となって学内外において企画し実践する「プロジェクト教育」、社会で役立つ各種資格取得に対応した科目や資格取得講座を多数開設し、将来の職業につなげていくための「資格取得教育」の 3 つからなり、学生が社会で夢を実現できるよう一人ひとりのキャリア形成教育を推進しています。

また、リベラルアーツ&サイエンス(LAS)センターが中心となって全学的に取り組む、社会人として必要な基礎力の育成プログラム、大手企業の寄附で運営する未来講座：21 世紀人材育成 Program など、建学の理念に基づく多彩な人材育成のためのプログラムを運営しています。

●国際的ネットワークと地域のネットワーク

本学は、国際大学として世界各地の 30 を超える大学と姉妹校協定・学術提携を結び、「国際的な学び」のネットワークを構築、語学力や異文化理解力の向上のための豊富なプログラムを用意しています。また、ネイティブスピーカーと語学教授法を習得した経験豊かな多くの講師陣からなる語学教育センターが中心となり、「留学前」「留学後」のための支援プログラムや、キャンパス内でコミュニケーションスキルを高められる教育環境を充実させています。

千葉県東金市にある東金キャンパス以外にも、様々な教育・研究施設を設け、教育や研究を通じて地域社会および国際社会に貢献しています。東京都千代田区紀尾井町に「東京紀尾井町キャンパス」、千葉県鴨川市に観光学部と安房ラーニングセンター（宿泊研修施設）を併設した「安房キャンパス」、千葉県幕張地区にメディア教育を中心とする「幕張キャンパス」を設置しています。また、千葉県かずさアカデミアパークで製薬研究拠点となる「かずさ創薬研究センター」、千葉県大多喜町では「城西国際大学薬草園」を運営するなど、いわゆる東京ベイエリアに教育拠点のネットワークを広げています。

●各学部における教育の特色

地域密着型の国際大学・総合大学として、首都圏に広がる 4 つのキャンパスに 6 学部 7 学科、大学院および留学生別科を設置し、建学の理念に基づく人材育成に取り組んでいます。

観光立国が宣言されて新たに観光庁が発足し、21 世紀最大の産業として期待されている観光分野で、ウェルネス(心身の快適さ)とホスピタリティ(お客さまの身になったもてなし)を両輪とする新しい観光スタイルを提言できる人材の育成を目指す観光学部。千葉県との業務委託をはじめ、地元に着目した各種プロジェクト教育や国内外での多彩な研修



など、独自の教育プログラムを用意しています。

社会福祉士、介護福祉士、保育士、精神保健福祉士の資格に対応したコース制を設け、各福祉専門分野に加えて文化や社会、環境、経営などについても学べるカリキュラムを備えた福祉総合学部。手話コーラス活動をはじめとするボランティア活動も盛んです。

情報・映像・デザイン・サウンドという 4 領域をクロスさせて、メディアの多様性と先進性を活かした新しい活動を創り出せる人材を育成するメディア学部。

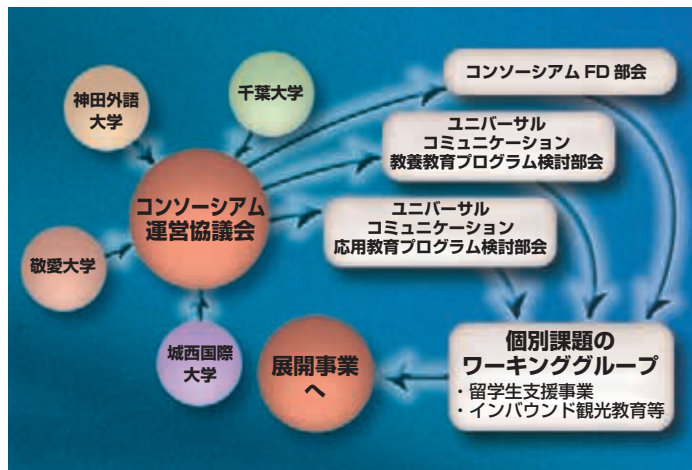
時代のニーズの変化に対応するために、いわゆる薬学知識だけでなく、栄養や福祉についての知見も深め、さまざまな医療現場で活躍できる知識・技能・マインドを兼ね備えた薬剤師の育成を目指す薬学部。

ビジネスの第一線で活躍できる経営知識と情報技術を広く深く学び、公共、生活や健康・スポーツ、情報分野など多彩なコース制教育で実践力とマネジメント力を身につけられる経営情報学部。特に簿記教育では、全国トップクラスの実績をあげています。

国際人文学部では、多彩な国際教育プログラムを通して、英語・中国語・韓国語をはじめ使える外国語を学び、国際的な視点から日本や外国の文化を理解する力を養います。さらに、社会人として必要な日本語力・表現力・コミュニケーション力を高めるなど、「役に立つ人文教育」を目指しています。

<http://www.jiu.ac.jp/>

●コンソーシアム実施体制



実施体制

本取組の代表校を国立大学法人千葉大学とし、連携校として神田外語大学・敬愛大学・城西国際大学の参加により、千葉圏域コンソーシアムを構築する。コンソーシアム参加4大学は、それぞれ副学長など、各大学の教育を体系的・組織的に統括する立場にある最高責任者を1名、ならびに教養教育の現場において責任を持つべき立場にある教員少なくとも1名以上を委員として推薦し、計10名程度による千葉圏域コンソーシアム運営協議会を組織する。さらに、運営協議会のもとに、「コンソーシアムFD部会」、「ユニバーサルコミュニケーション教養教育プログラム開発部会」、「ユニバーサルコミュニケーション応用教育プログラム検討部会」を設け、さらに、部会のもとに、「留学生支援事業検討WG」、「インバウンド観光教育WG」など、いくつかの個別課題に即応したWGを機動的に設ける。これらの部会において、ユニバーサルコミュニケーション教養教育に関するカリキュラムの開発、ならびに、ユニバーサルコミュニケーションに向けた教養教育の効果を検証しつつ、改善方法を検討するFD技法の開発、さらにこれを地域社会に開かれた生涯教育や、千葉県との連携に基づく観光教育などに向けて、応用的、かつ実践的に展開するための中長期計画について、定期的な検討を実施し、コンソーシアムを実質化する。とくに初年度には集中的に会合を持つとともに、コンソーシアムの目的と事業内容についてHPや印刷物等を通して広報活動を行い、大学構成員・地域市民なども含めて周知することを目指す。

千葉圏域ユニバーサルコミュニケーション運営協議会の事務局は、当面、国立大学法人千葉大学内に置くこととする。立ち上げの初期段階にはことに強力な事務局機能が求められるため、支援期間を通して、カリキュラム開発と試行、ならびにコンソーシアム運営に専念する特任教員を千葉大学事務局内連携戦略室に配置、教育担当理事直属として、取組代表校である千葉大学が責任を持って事業推進を実施する体制を整える。また、連携取組校においても、コンソーシアムの初期起動における円滑な協働と集中を実現すべく、運営委員に直属し、これを補佐して、それぞれの大学における教育目標と実践的課題に即応したカリキュラムを提案・試行するための特任教員等を置き、コンソーシアム連携業務に従事させる。

事業期間中の年次計画

【平成20年度】

コンソーシアムの起動

- 千葉圏域コンソーシアムを立ち上げ、その中核として、各大学から選出された計10名程度の責任者を構成メンバーとする千葉圏域コンソーシアム運営協議会を組織する。さらに、運営協議会のもとに、個別の課題に対応した部会を設け、中長期的な将来計画を策定する。また、コンソーシアムの目的と活動方針を周知するために、コンソーシアム紹介のためのパンフレット、ならびにHPを立ち上げる。
- 将来の教養教育カリキュラム共有化の前提として、まずコンソーシアム参加4大学間における単位互換協定を実施する。
- 立ち上げの初期段階にはことに強力な事務局機能と緊密な連携が求められるため、支援期間を通して各大学では、カリキュラム開発と試行、連携業務に専念する特任教員を配置し、運営協議会委員を補佐する体制を整える。
- e-learningの導入に向けてメディア教育開発センターと連携しつつ予備的検討を開始するとともに、ICTの基盤整備を実施する。

【平成21年度】

ユニバーサルコミュニケーション教養教育に関するカリキュラムの研究・開発

- ユニバーサルコミュニケーションの発想を基礎に据えたカリキュラム、コンテンツを開発する。とくに1)手話教育の試行、2)国際文化理解のための教育コンテンツ、授業方法の検討を主要な課題に据えるとともに、実効ある教養教育実施のためのFDについてWGにて集中的な検討を行う。
- e-learningを試験的に一部導入するとともに、ICTを利用したFDの方法についても検討を開始する。

【平成22年度】

ユニバーサルコミュニケーション教養教育に関する統一カリキュラムの試行

- 開発されたカリキュラムを、条件の整った複数大学にて共通科目として試験的に導入するとともに、大学横断的にコンソーシアムとして教養教育のためのFDを実施する。
- ユニバーサルコミュニケーションの発想から派生する多様なシーズを生涯教育・社会人教育等に向けて展開するための方策を検討し、中長期計画として公表する。

これまでの主な活動

■ 2008 年 9 月 26 日

千葉大学において、第 1 回運営協議会を開催
主に、契約書案の提示、運営体制の確認と具体化、本年度事業の実施工程について協議しました。

■ 2008 年 10 月 20 日

千葉大学普遍教育センターに、戦略連携室を設置、本事業専従の特任教員を配置しました。

■ 2008 年 10 月 31 日

神田外語大学において、第 2 回運営協議会を開催。
契約書の承認、広報活動の基本方針を決定。主に e-learning と手話教育に関する課題について協議しました。

■ 2008 年 11 月 25 日

学習会「e-learning による大学教育の改善と効果」を開催（千葉大学普遍教育センター第 5 回学習会と共催）
岩手大学から江本理恵准教授、東京農工大学から加藤由香里准教授、江木啓訓助教を招いて、e-learning システムを利用した FD の実践例についてお話しいただきました。

■ 2008 年 12 月 10 日

独立行政法人・メディア教育開発センターの理事・担当者と懇談。
e-learning システムの導入と運用、センターによる e-learning 活用の指導サービス等について話し合いました。

■ 2008 年 12 月 12 日

城西国際大学において、第 3 回運営協議会を開催。
主に、評価諮問会議実施体制の枠組みを決定、シンポジウムまたは公開講座の開催について協議しました。

▶ 連絡先

普遍教育センター戦略連携室
senryaku-renkei@office.chiba-u.jp
電話・Fax：043-290-3803
千葉県千葉市稲毛区弥生町 1-33
千葉大学普遍教育センター戦略連携室